



平成 19 年 9 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社キリン堂
代 表 者 名 代表取締役社長 寺西 豊彦
(コード番号 2660 東証第一部・大証第二部)
問 合 せ 先 常務取締役 井村 登
事業戦略室長
(TEL. 06-6394-0039 (代表))

平成 20 年 2 月期中間期業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成 19 年 4 月 3 日の決算発表時に公表しました「平成 20 年 2 月期中間期（平成 19 年 2 月 16 日～平成 19 年 8 月 15 日）」の業績予想（個別・連結）を下記のとおり修正いたします。また、当社並びに当社連結子会社において、特別損失が発生する見込みとなりましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 当中間期の業績予想の修正（平成 19 年 2 月 16 日～平成 19 年 8 月 15 日）

①個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (A) (平成 19 年 4 月 3 日)	39,800	970	348
今 回 修 正 予 想 (B)	39,651	1,023	459
増 減 額 (B-A)	△ 148	53	111
増 減 率 (%)	△ 0.4	5.5	32.0
(ご参考) 前中間期実績 (平成 19 年 2 月期中間期)	35,065	728	336

②連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (A) (平成 19 年 4 月 3 日)	54,098	1,190	282
今 回 修 正 予 想 (B)	53,775	1,135	313
増 減 額 (B-A)	△ 322	△ 54	30
増 減 率 (%)	△ 0.6	△ 4.6	10.8
(ご参考) 前中間期実績 (平成 19 年 2 月期中間期)	35,164	718	328

2. 中間業績予想の修正理由

①個別

平成20年2月期中間期におきましては、前連結会計年度において、子会社化いたしました(株)ニッショードラッグとのグループシナジーを追求すべく、当上半期での「帳合・システム・物流センター」の統合を進めてまいりました。また同時に、関西地域ドミナント化推進のもと、スーパードラッグストアの積極出店を行なうとともに、既存店の活性化による利益率の向上に努めてまいりました。

その結果、売上高につきましては、利益重視の営業政策を実施、競争激化の中でも販売を控えた販売促進策を実施した結果、396億51百万円（前回予想比0.4%減）となる見通しであります。

経常利益につきましては、ヘルス&ビューティケア商品の販売強化や値引きコントロールの重視により粗利率が向上したことに加え、コストコントロールを柱として営業推進した結果、10億23百万円（同5.5%増）となる見通しであります。

当期純利益につきましても、経常利益が予想より上回ったこと、損失発生が減少したこと等により、4億59百万円（同32.0%増）となる見通しであります。

②連結

売上高につきましては、主として個別業績と同一の要因により、537億75百万円（前回予想比0.6%減）となる見通しであります。

しかしながら、経常利益につきましては、ヘルス&ビューティケア商品の販売強化や値引きコントロールを重視したことで粗利率が向上いたしましたが、(株)ニッショードラッグの決算期変更等に伴う販管費の増加により、11億35百万円（同4.6%減）となる見通しであります。

一方、当期純利益につきましては、個別業績と同一の要因により、3億13百万円（同10.8%増）となる見通しであります。

3. 特別損失の発生及びその内容

「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴い、当社及び当社連結子会社が所有している店舗設備等の一部について減損損失が70百万円発生、さらに当社及び当社連結子会社の不採算店舗の閉鎖に伴う店舗閉鎖損失など85百万円等が発生することにより、以下の金額を特別損失に計上いたす予定であります。

連結：1億85百万円

- (注) 1. 連結・個別の通期業績予想につきましては、現在精査中であります。
2. なお、当社（個別・連結）は、平成19年10月4日に中間決算発表を予定しており、詳細につきましては、決算発表にてご報告させていただきます。
3. 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上